

第9回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」摘録

日 時 平成26年3月13日(木)
午後3時55分～午後5時

場 所 ホテル本能寺 5階 雁(かりがね) 1・2会議室

出席者 (敬称略 五十音順)

委員 中井 歩 (京都産業大学法学部准教授)
" 福岡 雅子 (大阪工業大学工学部准教授)

会長 本多 滝夫 (龍谷大学法科大学院教授)

委員 村瀬 克子 (京都市地域女性連合会常任委員)
" 横井 康 (公認会計士)

事務局 京都市 環境政策局 循環型社会推進部 まち美化推進課

- 議事内容
- 報告事項
 - 1 平成25年度「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査」結果について
 - 2 本市の取組状況について
 - 協議事項
 - 平成25年度の業務履行に対する評価・意見

内 容

○ 開会

事務局から資料に基づき説明

○ 議事

委 員： 軽微な事故が増えれば、重大事故にもつながる。軽微な事故について分析ができてきているのか。

事務局： 軽車両でのごみ収集の際に安全確認が不十分なため、狭路での走行やバックの際にこするような事故が多い。また専任の運転手以外が軽車両を運転したときに事故を起こしている。少しの気の緩みから事故が起きていると分析している。

委 員： 道幅が狭いために収集車が通行の邪魔をしていることがあった。人や他の車の通行を優先するなどの配慮をしてもらいたい。

会 長： 収集車については大きいものであるため、他の通行車両に対する配慮は普通の車以上に求められる。

事務局： 歩行者でも収集作業が終わるのを待ってもらっている方がいれば、歩行者を優先するよう職員全員に話をしている。

各まち美化事務所においても少人数で意見交換を行い、事故が増えていることについて何が問題かを議論し、収集員が降りるなどして十分に安全確認を行うことが重要であるとの結論になった。

ヒヤリハットの研修を行い、少人数で課題を挙げ、またその振り返りを行い、さらに目標設定を行うといった取組を行っている。事故については小さなものでもゼロにしていきたい。

委 員： 職員に対しては懲罰ではなく、事故事例を共有し、どうすれば事故がなくなるのかという取組にして欲しい。

事務局： 事故の事例については本庁課で集約を行い、各事務所にはその情報を周知し、事務所内で全職員が見れるようにしている。

会 長： 「業務に対する職員の誇りと責任感の醸成」について積極的に取り組み、職員の責任感や意識の向上につながってきているように感じる。

委 員： 委託業者の場合についても善行等の表彰をしてはどうか。委託業者も市の仕事を担っているとの意識を持つことは、業務全体にとってもプラスにつながる。

会 長： 今後、委託化をさらに推進していくうえで委託業者の業務水準を確保していく必要がある。そのために体制や仕組を市で確保していくことが重要である。

事務局： 委託業者とはお互いに意思疎通を図り連携していく。委託業者の収集の区域も直営の職員がチェックしていくという姿勢で取り組む。

また、市民対応は挨拶が基本であると普段から指導しているが、引き続き行っていく。委託業者との差の分析はなかなか難しい。

事務局： 回答者の中で若年層が少ないのは実際にごみを排出される方に回答してもらっているためと分析している。また、ファミリータイプのマンションなどは許可業者が収集している場合があるため除外している。

会 長： ごみ減量に関する広報については積極的に行っており、エコまちステーションにおいても力を入れている。

委 員： エコまちステーションがまだまだ浸透していない。職員は一生懸命している。雑がみの分別はかなり効果があるので、さらに進めてもらいたい。燃えるごみの量が減ったという声が多い。

事務局： 雑がみについては先日も市民しんぶんで広報させていただいた。今年度社会実験を行い、8割の市民にはごみが減ったと実感していただいた。現在、コミュニティ回収を実施していない地域には、これからまち美化事務所やエコまちステーションが入っていき、紙ごみや生ごみの減量を進めていきたい。

委 員： プラスチックごみについては量がかさばるが、収集回数を増やす考えなどはあるのか。

事務局： 収集を週2回にするとその分収集車を走らせることになってしまうため、現在のところは考えていない。市民の皆様には、紙ごみだけでなく、プラスチックの更なる分別の徹底をお願いしていきたい。

委 員： 市民ニーズに応じてサービスを良くしていくことは、ごみを出しやすくなり、ごみが増えることにもつながる。ごみ減量とは逆の方向になってしまう。

事務局： 販売店に量り売りのお願いをしたり、トレイはスーパーの店頭で回収に出していただくようお願いしたりしている。

委 員： 市民サービスを良くしアンケートの評価を高めることとごみ減量のためにする必要のあることを取り違えないようにしてもらいたい。

仮に市民から苦情があったとしてもしなければならぬことはしっかり進めてもらいたい。

会 長： 事故が増加していることについてはもう一度現場でしっかりと研修を行うこと、また市民との関係性についてはまだ改善の余地があること、雑がみ回収については積極的に行っており、プラスチックの分別については今後も進めてもらいたい。

ごみを減らしエコロジカルな社会をつくっていくという目標に向かって、収集業務についての自己評価を行い、市民にも協力をしてもらうこと、委託業者との関係をより重視していくことなどの点について取り入れるようお願いする。

事務局： 今日の意見を踏まえ、本市においてどのような取組をできるかを十分に議論し、今後の改善に努めていきたい。

○ 閉会